

石川県気候変動適応センター

石川県気候変動適応センターでは、気候変動の影響や適応に関する情報収集、整理を行い、県内の皆様が気候変動の適応を進めるためのサポートを実施しています。



地域における気候変動（温暖化）

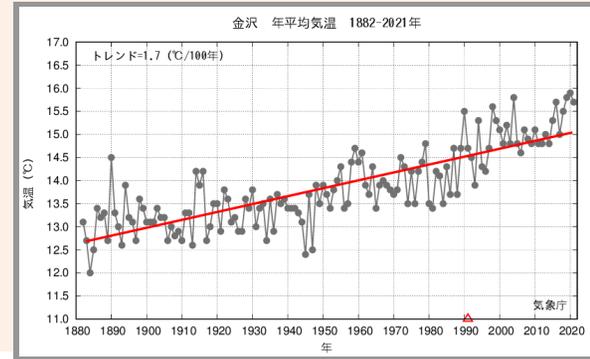
現在

石川県（金沢市）では年平均気温が100年あたり約1.7℃上昇しており、気候変動（温暖化）が進んでいることがわかります。

将来

21世紀末の年平均気温は全国的に高くなると予測されています。現状を上回る地球温暖化対策を取らず、温室効果ガスを排出し続けた場合、21世紀末には、石川県の年平均気温は20世紀末よりも約4.4℃高くなると予測されています。

石川県（金沢市）の年平均気温の変化※1



気候変動による影響と「適応」の必要性

気候変動により以下のような影響が懸念されており、抵抗力を高める取組である「適応」が必要とされています。「適応」については裏面もご参照ください。

現在

近年、世界中で極端な気象現象が観測されており、日本もその例外ではありません。毎年のように、記録的な大雨や強風による災害が発生しており、各地で断水や停電など、生活インフラへの被害が相次いでいます。この他にも、農作物の品質・収量の低下や、サクラの開花日の早まり、サンゴの白化など、様々な分野で気候変動による影響があらわれています。

将来

現在のように温室効果ガスを排出し続ければ、気温が上昇することで既に顕在化している影響がさらに悪化することに加え、感染症を媒介する蚊の生息域が広がり、感染症のリスクが高まることや、熱中症によって亡くなる人が増えることが懸念されています。

石川県が取り組む適応策（主な取組例）

石川県では、現在や将来の気候変動による影響に対し、以下のように分野ごとの適応策を進めています。

 農業、森林・林業、水産業分野	・気温上昇による収量・品質の低下を防止するための新品種・新技術の開発・普及
 水環境・水資源分野	・湖沼等の公共用水域の水質の監視、地下水位、地盤変動の監視
 自然生態系分野	・高山帯および亜高山帯でのモニタリングを継続して実施
 自然災害・沿岸域分野	・水害を未然に防ぐため、堤防整備や河川拡幅、即効性のある堆積土砂の除去等を実施 ・水害時の逃げ遅れを防ぐため、最大規模の降雨を想定した洪水浸水想定区域図の作成・周知や、避難時間を確保するための堤防舗装の実施等
 健康分野	・熱中症の予防策や注意点について、関係機関と情報交換するとともに、県民に対して周知

センターについて

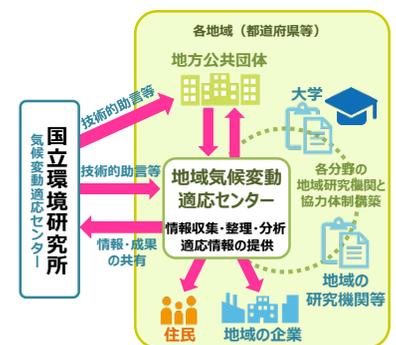
●設置根拠・体制

2018年6月に交付された気候変動適応法（平成30年法律第50号）において、「都道府県及び市町村は、（中略）気候変動影響及び気候変動適応に関する情報の収集、整理、分析及び提供並びに技術的助言を行う拠点」を確保するよう努めるものと定められました。これを受け、石川県では令和2年4月1日に石川県気候変動適応センターを設置しました。

●主な活動

本センターでは国や地方公共団体、研究機関等と連携し、気候変動の影響や適応に関する情報の収集、整理等を実施します。また、その成果を広く提供することで、県内の市町村や事業者、県民のみならずそれぞれの、気候変動適応に関する取り組みを促進します。

地域気候変動適応センターの位置づけ



石川県気候変動適応センター
〒920-8580 金沢市鞍月1丁目1番地
TEL: 076-225-1462 FAX: 076-225-1479
Email: ontai@pref.ishikawa.lg.jp

温暖化対策には2つの取組が必要です。

私たちは日々の暮らしの中で温室効果ガスを大量に排出しており、そのことによって地球の平均気温は上昇を続けています。こうした地球温暖化やそれに伴う気候変動が、私たちの生活に大きな影響を及ぼすことが懸念されています。そこで「緩和」と「適応」、2つの温暖化対策への取組が必要となります。

■緩和

人間社会や自然の生態系が危機に陥らないためには、実効性の高い温室効果ガス排出削減の取組を行っていく必要があります。温室効果ガスの排出削減に向けた努力が、「緩和」です。



■適応とは?



■適応

緩和を実施しても温暖化の影響が避けられない場合、その影響に対して自然や人間社会のあり方を調整していくことが、「適応」です。

温暖化による影響と適応策

日本において適応に取り組むべく、平成27年に「気候変動の影響への適応計画」が策定されました。そこでは、影響が既に生じているまたはその恐れがある主要な7つの分野（「農業、森林・林業、水産業」「水環境・水資源」「自然生態系」「自然災害・沿岸域」「健康」「産業・経済活動」「国民生活・都市生活」）が明示されています。



農業、森林・林業、水産業



水環境・水資源



自然生態系



自然災害・沿岸域



健康



産業・経済活動



国民生活・都市生活

今日からはじめよう！ 個人でできる適応の取組

これらは「適応」の一例です。



① 水を大切に使おう！

温暖化によって、雨が降る日がだんだん少なくなる可能性があります。ふだんから水を大切に使いましょう。エネルギーの節約にもなります。



② 熱中症を予防しよう！

地球温暖化が進み、気温が上がることで、熱中症になる可能性が増え、これまで以上に熱中症に気をつける必要があると考えられています。暑い日は、水をこまめに飲んだり、外に出るときは、帽子をかぶったりして、熱中症予防しましょう。

熱中症の主な症状

- めまいやほてり
- 筋肉痛・筋肉のけいれん
- 体のだるさや吐き気
- 汗のかき方がおかしい
- 体温が高い、皮ふの異常



③ 自然災害にそなえよう！

雨が降る日が少なくなる可能性がある一方で、一度に降る雨の量が極端に多くなったり、大型の台風が来る可能性があります。災害にそなえるために、避難場所や避難経路を調べておくことも大事です。



④ 虫刺されに気をつけよう！

気温が上がることによって、寒い地域に住めなかった虫が、北上する可能性があります。例えば、デング熱という病気を広める蚊の住める地域が北に広がっていますので注意しましょう。

デング熱について

ヒトスジシマカという蚊が運ぶウィルスが原因となる病気です。2014年、代々木公園などで感染したと考えられる患者が発生しニュースになりました。温暖化が進むことによって、将来的に流行することが心配されています。

